

平成27年度の主な成果等

平成27年	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構となる。
4月	宇宙探査、次世代航空の2つのイノベーションハブを創設。7月、宇宙探査はJSTのイノベーションハブ構築事業に選定される。両ハブとも、宇宙航空の枠組みを大きく超えた他分野の機関・人材が糾合する研究開発システムとして活動している。
7月	D-SEND 気球落下実験実施。すべてのデータを良好に取得し、低ソニックブーム機体の実現性と波形推算技術を実証。民間超音速機実現の可能性を高めた。
8月	H-II B ロケット 5号機による HTV5号機打ち上げ。HTVはISSへ物資を運搬、離脱後大気圏突入(9月)までミッションを完遂。他国におけるISSへの補給の連続失敗を受け、緊急物資等を運搬。7月からISSに滞在した油井宇宙飛行士がHTV把持を、若田宇宙飛行士がNASAでのISS地上管制を担当、筑波の補給機管制とあわせ、ISS補給ミッションの要を日本人にて実施。
9月	関東・東北豪雨に伴う鬼怒川破堤による水害の救援活動に災害救援航空機情報共有ネットワーク(D-NET)を使用した技術協力を実施。 同浸水域の「だいち2号」の観測データを防災対策機関へ提供。この実績により、従来から提供している地震・火山活動の観測に加え、国土交通省水管理・国土保全局で水害時の浸水域の把握のために「だいち2号」の利活用を進める方針が定められた。
11月	H-II A ロケット 29号機(高度化機体)によるカナダの通信衛星Telstar-2VANTAGE打ち上げ成功。高緯度に位置する種子島射場の打ち上げ能力のハンディキャップを克服し、H-II Aの本格的な国際市場への参入を可能とした。 降水分布を1時間以内に提供する「世界の雨リアルタイム(GSMaP_NOW)」公開を開始。
12月	「あかつき」金星周回軌道へ投入。 「はやぶさ2」地球スイングバイを実施。
平成28年	H-II A30号機による「ひとみ」打ち上げ。
2月	創薬研究開発ベンチャー企業との包括的な有償利用契約の締結。創薬開発においてJEMの有効性が高く評価された。
3月	UAE宇宙機関との協定締結。 民間事業者と協働で整備したALOSデータによる世界最高精度の全世界デジタル3D地図完成。民間事業者は世界数十か国でサービス事業を実施。 気象庁がGPM/DPRの観測データの数値気象予報での活用を開始。世界で初めての衛星による三次元降水データの数値気象予報への活用であり、JAXAとの協働で開発して予測の精度を向上させた。 「ひとみ」通信途絶。